

高齢者の脳に良好な刺激を与える椅子の検討（概要）

令和 7 年 8 月

日本医療大学

1. 目的

70 歳代以降の高齢者は、リラクゼーション指標の一つである脳波の α 波が減少することが知られている。つまり高齢者は、生理学的にリラクゼーションが取りにくい状況となっており、ゆったりとした日常になっていないことが示唆されている。我々が開発してきたスwingスライド機構は、前後に揺れを発生させることが可能である。この機構は $1/f$ といわれる揺らぎによってリラクゼーションが取りやすい環境を提供できると考えている。つまり加齢によって減少する α 波をスwingスライド機構で補うことが可能になれば、高齢者にとって有意義な結果になると想定している。2025 年度はこれまでに加え、脳血流量の測定も試みている。

2. 連携事業の相手方

株式会社 クオリ

所在地：愛知県 安城市

3. 連携期間（研究期間）

令和 6 年 4 月～令和 8 年 3 月

4. 検証方法

シルバー人材センターに登録している健常高齢者を対象に通常の椅子とスwingスライド機構の椅子での脳波比較を行う。

5. 効果等

施設に入所している高齢者の 1 日を調査した研究では、日中の大半を椅子で過ごしているとの報告が見られている。この研究結果を参考にすると 1 日の大半を過ごす椅子を活用し、加齢によって減少する α 波を補い、高齢者にリラクゼーションを提供することは、意義があるものと考える。さらに、ストレスは認知症進行の一要因と言われており、高齢者にとってリラクゼーションを提供することは重要なことであると考えている。脳波だけではない高齢者に好まれる刺激の検討を継続している。

6. 学会発表

- ・2020 年 認知症高齢者へ快適な座りを提供する新たな椅子の開発 日本認知症ケア学会